

## 平成28年度第2回敦賀市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成29年2月3日（金） 14:00～15:05

2. 場 所 市役所4階 講堂

3. 出席者

市 長	淵 上 隆 信		
教 育 長	上 野 弘	委 員	佐々木 與 栄
委 員	岸 本 松 則	委 員	中 宮 智 子
事 務 局	事 務 局 長 池 田 啓 子		
	教育政策課長 山 本 寛 治	生涯学習課長	大 道 三 明
	文化振興課長 永 田 恵 美	スポーツ振興課長	高 島 義 浩
	国体推進課長 土 手 雅 弘	秘書広報課長	中 野 義 夫
	教育政策課主幹 江 戸 義 直	教育政策課主幹	吉 田 聡
	教育政策課総務係長 杉 村 祐 介	教育政策課臨時	森 川 友

4. 内 容

(1) 開会

(2) 市長あいさつ

本日は、お忙しい中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。

新しい年を迎え、早いもので1ヶ月がたちました。今年度も様々なことがございましたが、教育行政におきましては、委員の皆様方のお力添えを賜りまして、昨年9月に、今後5カ年の教育行政の指針となる「敦賀市教育振興基本計画」を策定していただいたところでございます。教育委員会におきましては、計画の基本理念にある『「白砂青松」の地である敦賀を愛し、郷土の発展に貢献する活力ある人材を育成するため、家庭・学校・地域が一体となって、先人が築き上げた伝統を受け継ぎ、「人道の港」敦賀ならではの魅力ある教育を推進する。』を実現するため、学校教育・社会教育・文化・スポーツ、それぞれの分野で前向きな取組を進めているところでございます。本日は、計画の進捗状況や取組内容について、意見交換を行い、私をはじめ、市長部局と教育委員会とが、密に連携し、その実現に向けて、引き続き力を合わせていくことを確認させていただきながら、協議を進めてまいりたいと思いますので、短い時間ではございますけれども、最後までどうぞよろしく願いいたします。

(3) 協議事項

①「敦賀市教育振興基本計画」の進捗状況等について

ア 学校教育の充実について

私からは、「基本方針（1）学校教育の充実」において、数値目標を立てました項目の進捗

状況についてご説明いたします。本日の資料の数値は、市独自で実施しております総合学力調査の生活実態、アンケート結果をもとにしております。

・「基本施策② 自ら考え、行動する力を身に付ける教育の推進」では、現況と課題に照らし合わせ、3つの数値目標を設定しておりますが、「ふるさと学習への興味」、「自分の意見や考えを分かりやすく伝えること」、「本や新聞を読むこと」のすべてにおいて、小・中学校の数値がそれぞれ平成27年度より伸びていることが分かります。

中でも、「ふるさと学習」に関する数値の伸びが著しく、進捗状況において、平成32年度の目標数値を超えることができております。学校の先生方が、市教育大綱ならびに教育振興基本計画の基本理念を十分に理解し、本市の教育施策の大きな柱として「ふるさと素材の活用」「家庭・学校・地域が一体となった教育活動」に取り組んできた成果であると捉えております。今後も、この高い数値が継続できるよう、取り組んで参りたいと思っております。

「自分の意見を分かりやすく伝えること」「本や新聞を読むこと」については、各中学校区における小中一貫教育の共通課題として認識し、授業や家庭学習における共通した活動を実施している成果と捉えております。市教委としましても、福井大学附属学園との連携により10月に「小中一貫カリキュラム vol1」を作成し、vol2も3月末を目途に作成中です。今後も、学びのつながりを捉えた教育の充実を図って参ります。

・「基本施策③ 社会のグローバル化に対応できる外国語教育の推進」では、本年度も全小学校に市雇用のALTを配置し、学級担任とのチーム・ティーチングによる授業を行っております。H29年度当初からの調査により市総合学力調査に数値が入って参りますので、今回は数値としてお示しはしていません。

・「基本施策④ 個々のニーズに合わせた特別支援教育の推進」では、数値目標として「小中学校における特別支援学級や通級指導教室と学年・学級における相互の交流学習の推進」を交流の年間総時数の割合で示しております。

現在のところ、小中ともに1%前後伸びております。今後も、実体験を通した子ども同士の相互理解を深めて参ります。

・「基本施策⑤ すこやかな体の育成をめざした健康・安全の推進」では、基本的な生活習慣の定着と目と歯の健康促進として、う歯罹患率の減少を数値目標にして取り組んでおります。この数値は「つるがの学校保健（敦賀市学校保健会）」を参照に、歯科検診での数値を使用（県、国も同様）しております。

罹患率は数値が低い程、よい状況となり、現時点では、H32年度の数値目標を超える大きな伸びとなっております。

その原因として、

- ・昨年度より、秋の追加健診を実施していること
- ・昨年度より、受診率調査を9月と1月の2回とし、これまで以上に治療勧告を行っていること（受診者の増加）
- ・今年度より、中学生についても「正しい歯磨き教室」を実施していることがあげられ、処置完了率は今後上がっていくことを見込んでおります。

・「基本施策⑥ いじめや不登校を予防し、防止する生徒指導体制の推進」では、市総合学力調査における意識調査と、不登校出現率の現在の状況を数値化したもので進捗状況を示しております。子どもの意識においては、特に中学生の大きな伸びが見られます。ここでも、家庭・学校・地域が一体となった子どものサポート体制の充実が成果となっていると考えております。

特に中学校では、市S連（敦賀市スチューデントズ連合会）を中心にパソコン、スマートフォンの使い方についてルールを定め、取り組んできたことが大きな要因となっていると考えております。

今後も、いじめ不登校の未然防止、早期発見、早期対応に努めてまいります。

・最後に、「基本施策⑧ 社会の変化に応じた教育活動を行うための教職員の資質及び指導力の向上」では、今年度、市教委が開催した4回の「知・徳・体」充実プラン研修会と初任者研修を対象とした数値であります。自主的な学びを尊重し、児童生徒への直接指導がない土日の開催も実施しております。今後も、新しい学習指導要領への理解促進と、教職員の資質及び指導力の向上に直結した具体的な研修を計画し、自主的な研修の参加率を高めて参ります。

以上で、学校教育の充実における進捗状況の説明を終わります。

（教育政策課主幹説明）

岸本委員…計画目標が書いてありますが、これを実現するためにどういう方法で、何を何回してというような具体的な事が何も書いてありませんが、学校間で共通理解が得られているのですか。何をしたら数値が増えたのかが分からない。目標値を立ててそれを目指してすることが目標になるので、行動目標と数値目標をきちんと立てたほうがよいと思います。子どもの感情や感覚だけでアンケート結果が出てくるのが心配です。

市長…行動目標や数値目標等をもってらっしゃると思いますが、ふるさと学習については目標値をこえているので、どのような要因があったので数値が増えたのか分かりましたら教えてください。

教育政策課主幹…地域コミュニティの事業において、すべての小学生が市内の史跡・博物館等の見学が出来るようになっていきます。そして小学校6年生、中学校3年生は修学旅行を活用しながらふるさと学習の集大成として他地域に発信していくという活動を盛んに行っております。地域のお菓子屋さんと協力をして新しい商品を作って販売をするなどしております。

市長…計画目標は、取り組んでいますか？はい、いいだけではなく、他にも項目があってその中でデータを集計しながら流れていると思いますが、27年度から32年度の目標値を達成していますが、人が変わりますので、この進捗状況を維持していきけるように頑張っていたらと思います。

## イ 社会教育の充実と活性化

生涯学習課からは、基本方針2「社会教育の充実と活性化」に伴う、基本施策について御説明申し上げます。

各種事業や施設の利用者を増加させる目標について、各種講座や自主学習教室等の主催事業の参加者数については、平成27年度55,837人のところ、本年12月末現在で46,131人です。昨年同時期では、44,589人でしたので、増加ということになります。12月末の数字に昨年度の1～3月の利用人数を足しますと、57,379人となり、2.76%の増加となる見込みです。

次に、生涯学習施設利用者数ですが、平成27年度127,534人のところ、12月末現在で、97,843人で、昨年同時期では、103,607人でしたので、減少ということになります。先ほどと同じように、昨年度の1～3月の利用人数を足しますと、123,617人となり、3.07%の減少となる見込みです。

最後に、図書館の利用人数ですが、昨年度206,560人のところ、12月末現在で145,174人、昨年度同時期では、159,419人でしたので、減少ということになります。また、昨年度1～3月の利用者を足した今年度末の予想利用者数では、192,315人となり、6.89%の減少となる見込みです。

社会教育の活性化のため、利用者を増やすには、ハード・ソフト両面の整備が必要です。ソフトにつきましては、利用しやすい施設を目指し、日々職員が知恵を絞り努力を行っているところです。

ハードにつきましては、今年度も11月5日に松原公民館が落成し、利用については、旧公民館の利用形態を引き継ぐほか、新しい公民館ということで、新規に利用する方もおられます。

松原公民館については、部屋数はほとんど変わっていないため、今までの利用空白部分の使用が考えられますが、飛躍的に利用が増えるかどうかはまだ未知数です。

松島第4公園（鯉公園）と一体的な整備を行ったものの竣工したのが11月であったため、利用者がそのまま公民館に入り利用することはまだございませんが、今後暖かくなってからは多くの公園利用者の利用が考えられるほか、フリースペースにある書棚には、漫画や女性向けの雑誌・絵本などを配架し、気軽に立ち寄れる環境作りに努めています。

（生涯学習課長説明）

市長…生涯学習施設の利用者が減ったのはなぜでしょうか。

生涯学習課長…特に理由はないと思いますが、年度によってこれぐらいの上下はあります。

市長…数値目標に向けて努力していくことは必要だと思います。

生涯学習課長…地域の特性に合わせた利用しやすい、誰でも気軽に立ち寄れる環境を作っていくと思います。

市長…目標を達成できるように、具体的なアクションを起こしていただきたいと思います。

## ウ 文化の振興・支援

文化行事の参加者数は若干伸びております。敦賀市教育委員会の共催・後援した文化行事に参加された方の合計です。今年度は新規事業のかもめ音楽祭などがたちあげられ、昨年度に比べ参加者数が増加しております。各種文化施設の利用者ですが、博物館・みなとつるが山車会館・市民文化センターの利用者数です。平成27年度は博物館がリニューアルオープンした年で、7月から3月までで1万6千人を超える方にお越しいただき、隣接する山車会館にも1年間で1万人以上の方にお越しいただいております。今年度については12月現在で若干昨年度を下回っていますが、大河ドラマの影響もあり、引き続き多くの皆様にお越しいただいているところです。博物館・みなとつるが山車会館については観光面でも互いに影響がありますので、他の施設とのコラボ企画も含め、広報活動等努力しているところでございます。人数が減っている理由についてですが、市民文化センターで27年度に全国大会等の大きい大会がありましたので、人数が増えています。今年は平年並みの数字です。市民文化センターは大ホールだけではなく、練習室等の利用者も増えておりますので、PRしながら進めていきたいと思っております。市指定文化財の指定数についてですが、本市管内に所在する国・県・市が指定した文化財の件数です。昨年6月1日に、市指定文化財として金ヶ崎にあります鐘塚と、大掠神社経塚出土品を新たに指定したところです。また10月3日に名勝奥の細道の風景地として氣比神宮境内が指定されています。市立博物館の建物も、旧大和田銀行本店本館として国の重要文化財に指定するよう、10月21日に文化審議会から答申されておりますので、近く告示される予定です。しかし福井県の文化財として指定されておりますので、件数には換算されません。文化財の整備についてですが、平成27年度から柴田氏庭園の整備事業を行っておりますが、新たに平成28年度から氣比神宮の大鳥居の漆の塗り替えが行われております。柴田氏庭園については平成33年度までに庭園敷地内の書院建物等の修復や庭園の整備を行う予定になっております。氣比神宮大鳥居については平成29年12月までに工事の完了予定です。

(文化振興課長説明)

岸本委員…博物館の来館者はどこにはいつているのですか。

文化振興課長…各種文化施設利用者数に入っています。

岸本委員…真田丸等で博物館の来館者数が増えているのかと思ったのですが、減っているのですね。

文化振興課長…リニューアルオープンに比べたら、若干減っているかと思っております。

岸本委員…維持していかないといけないですね。

文化振興課長…県や市の観光連盟等と合同で行う企画等に参加はしております。

岸本委員…大谷吉継ののぼり旗はあるのですか。立てたりはしているのですか。

文化振興課長…はいあります。観光協会と協議しながら、博物館通りなどには立てております。

岸本委員…人通りの多い商店街や駅前に立てて、博物館に集客できるといいですね。

文化振興課長…観光課とも相談しながら進めていきたいと思います。

中宮委員…県外者等が来るといいですね。敦賀マラソンの賑わっているときなどにPRするとよいですね。

市長…敦賀の駅前のホテルに県外の観光パンフレットが置いてあったので、そこは見習わないといけないですね。各種文化施設利用者の目標数値 75,000 人はどのように出した数値ですか。何か取り組みなどあれば教えてください。

文化振興課長…毎月どれぐらいの人が来て、県外者が何人来たかなどデータはとっております。アンケートもとっております。市内の観光施設を共通券で回るといったようなこともできないか、観光課や関係団体と相談しております。山車会館、博物館は広報や企画を職員が考えております。市民文化センターも広報でお知らせをしております。

教育長…市民文化センターは 1,000 名以上入るので、稼働率を高めるようなイベントを企画して、中高生等が活躍できるような仕組みを整えていきたいと思います。

岸本委員…観光客を増やすためには県外から集客しないといけませんね。博物館だけではなく、敦賀に来る要素が何かないといけません。リピーターが増えるような仕組みづくりをまち全体で取り組んでいかないとはいけません。

## エ スポーツの振興及び推進

地区体育館等のスポーツ施設の利用者についてですが、利用者を把握している施設は市立体育館、東浦体育館と広場、中郷体育館、中郷スポーツ広場、栗野スポーツセンター、金山体育館、武道館、市営野球場、花城テニスコート、夜間学校開放グラウンドの角鹿中学校・気比中学校・中郷小学校、花城・愛発プール、松原グラウンド、きらめきスタジアムです。進捗状況ですが、平成 27 年度の 12 月末の 142,540 人に対して、平成 28 年度の 12 月末は 137,636 人と約 4,900 人減少しておりますが、28 年の 5・6 月に市立体育館が休館していたことと、桜ヶ谷プールが学校施設として移管したことにより 8,050 人減少しております。通年なら増加していると考えております。平成 27 年度の実績は 172,937 人に対し、平成 28 年の 12 月末時点では 137,636 人と 80%ほどですが、1 月から 3 月の体育館の利用がありますので、27 年度の利用者数と同等数になる見込みです。次に総合運動公園の利用者ですが、利用者数を把握している施設は、体育館、陸上競技場、野球場、多目的広場、テニスコート、ローラー滑り台、ちびっこゲレンデ、ゲートボール場、弓道場、プール、トレーニングルーム、修景池芝生広場のグラウンドゴルフ利用者となっております。こちらについてもメイン体育館の床面の改修工事、音響設備の更新等により 11 月末から 1 月末まで休館をしていたことや、野球場の SBO の改修工事の影響が出ております。一番の要因は、県営陸上競技場が工事中の為、敦賀市で北信越規模の大会が 2 回行われるなど、県内の主要大会が行われたため例年より 20,000 人ほどの増加があり、27 年度が多くなっております。平成 29 年度は国体のプレ大会、平成 30 年度は福井しあわせ元気国体・元気大会があるため利用者の増減については読めないところもありますが、現在も国体に向けた施設整備を進めており、施設

利用者の利便性に努め、国体開催施設というレガシーを活用し、競技団体と共存し利用者の増加を図りたいと考えています。また少子高齢化の中、スポーツ少年団、若者のスポーツ人口減少も予測されますが、引き続きスポーツ振興普及に努めるとともに、高齢者の健康寿命を延伸するために、生きがいと健康づくりとして、誰にでもできる各種ニュースポーツ教室、出前講座等さらに拡大して関心や意識を高めるなど視野を拡大し豊かなスポーツライフが実現できる環境づくりを行うことが利用者増加に繋がりますので、目標値に向けて徐々にでも向上していきたいと思ひます。

(スポーツ振興課長説明)

市 長…体育館等の施設利用者数には男女共同参画センターの体育館は入っていないのですか。

スポーツ振興課長…入っています。

市 長…マラソンはカウントしないのですね。

スポーツ振興課長…入っていません。野坂山登山も入っていません。料金をとっている観客の数しか把握できません。運動公園の広場も多数訪れていますが把握できません。

市 長…今年と来年は国体があるので、増えると思ひますので、上がって下がるということはさげたいですね。31年は整備し直す時期なので下がると思ひるので、何か対策を考えないといけませんね。

岸本委員…目標値の設定を高くしていますが、そのためにはなにか具体的な取り組みがないと上がっていかないので、取り組みと目標値をリンクさせて見直していかないといけません。

市 長…市営球場が使えるようになったらその分は増えますね。27年度の運動公園の利用者数は、福井の運動公園が改修で使えないので敦賀に来ていると思ひれます。それよりも目標値は高くしてあるので達成するには努力しないと難しいと思ひます。

(国体推進について)

現在学校の敷地内に、国体の横断幕の設置、情報誌の配布・掲示、国体のマスコットキャラクターはびりゅうを学校のイベントごとにお呼びいただき、国体PRの機会をいただいております。その好影響といたしましてPRの出張回数が、本日のイベントを加えて100回となりました。敦賀市に国体を開催するという認識は広まってきていますが、敦賀市で何の競技が行われるのか、市民みんなで何ができるのかということは周知が足りていないと思ひております。運営サポーターを含めPRに拍車をかけていきたいと思ひます。昨年末、国体関連時における生徒・児童へのご協力のお願いと意向調査等を実施いたしまして、現在調整を進めさせていただいております。歓迎装飾にかかる小中学校児童生徒への依頼としまして、プレ大会、本大会の報告会の選手、監督をお迎えする際の47都道府県の手作り応援のぼり旗を作成したいと思ひております。資材等については実行委員会から提供いたしまして、8月に作品が出来上がり贈呈式をしたいと思ひております。製作期間を短縮できるようなら7

月にありますプレ大会でも掲出したいと思います。また歓迎の横断幕として児童に歓迎のメッセージを記入いただき、競技会場に掲出したいと思います。会場に花のプランターを置き花いっぱい運動を展開したいと思います。花には人を和ませる力や、リフレッシュ効果、リラックス効果を与えてくれるので、いい方向に持っていきけるように考えていきたいと思っております。時期は平成30年6月から培養土やプランターなどを配布し、水やりなどをして育成していただき、8月ごろに回収をさせていただく予定です。プランターには応援メッセージを添えていただきます。児童生徒全員が歓迎装飾に一人一参加していただくように考えておまして、中学校については応援のぼり、小学校については応援のぼりと歓迎横断幕と花いっぱい運動を学校に分けて実施をさせていただく予定です。小中学生を中心にはびねずダンス応援部を結成いたしました。昨年11月から応募を開始し268名の登録をいただいております。国体開催まで応援部活動をしっかり行っていきたいと思っております。学校観戦については50年ぶりに福井県で開催される国体を間近で観戦することによりスポーツへの関心を高め、夢を持つきっかけとなればと考えております。歓迎、応援することによりおもてなしの心の育成を図ることを目的に実施いたします。敦賀市は全児童生徒に一人一競技は観戦していただきたいと思っております。種目は卓球、ソフトボール、弓道、軟式野球を充てる予定です。また一斉に移動をしますと104台のバスが必要となり、国体の際のバス利用の予測としまして、県内のバスだけでは足りないため、北陸、中部エリアすべてのバスを借りることになりますので、敦賀市の学校関連のために多くのバスを利用できるかという問題があるので、時差式にしたり配車の工夫を行うことにより実現させたいと思っております。丸一日を国体の日として、競技はもとよりボランティアの活動などかかわる人たちの行動をしっかりと胸に焼きつけさせたい、このチャンスを十分に生かしたいと校長先生がおっしゃっておりました。たくさんの方々が敦賀にお招きすることになるので、多くのパワーが必要になると認識しております。国体推進課は課として歩き出したところではありますが、間もなく最終局面を迎えます。学校の先生を始め学校サイドのご助言等を頂きながら連携して教育にかかわる分野においてもしっかりと事業展開していきたいと思っております。

(国体推進課長説明)

#### (4) その他

岸本委員…小中一貫教育と角鹿中学校区と混乱していると思っております。市全体として進める小中一貫教育とは小中がより一つになることですね。角鹿中学校区の建設も含めてしようとしていることは、小中が一体化された学校で小中一貫教育がやりやすい。他の中学校区は分離している。敦賀市はどのような方向の小中一貫教育をしようとしているのか、角鹿中学校区の建設とからんだ小中一貫校というのが、遊離しています。それでよいのか、どのように調整していったらよいのでしょうか。

市長…小中一貫教育という意味では、小中の教育の連携を進めていただいておりますが、角鹿中学校だけを小中にしてしまうと他と教育が違ってくると困るので、敦賀市全体としてどうしていこうかということが大前提ですので、それを進めていって中一ギ



ャップが無くなり、角鹿中学校があるかと思うので、そのあたりを混乱されている方がいらっしゃると思います。

岸本委員…角鹿中学校区における小中一貫校の建設の方向性にもかかわってくるので、すっきりさせないといけないと思います。

市長…また事務局で検討していただきたいと思います。

岸本委員…（１）学校教育の充実の②ですが、目標値をすでに超えています。基盤がしっかりしていれば何度調査してもほぼ継続的に 60%近くいくはずです。今の取り組んでいる方法がある程度確立していてこういう数値に上がってきたのならば継続しているはずですし、フラットなものであれば次回してみないと分からないという数字になるのか、合わせて検討していただいて、目標値を変える必要があるなら変えないと、毎年目標値を超えるということになるかと思っています。